

経済学英語ハンドブック

授業で使える例文集

名古屋経済学教育研究会

はじめに

グローバル化の急速な進展によって、海外に留学を志す学生や、海外から日本に留学する学生が年々増えてきています。このような動きは経済学の分野でも活発になってきています。これまで日本の研究者は、海外の研究者との交流が必要なことから、研究上での英語の重要性を認識してはいましたが、教育の現場においては留学生の数もさほど多くなかったことから、それほど頻繁に英語の使用を要求されることはありませんでした。しかし今日、ほとんどの大学でますます多くの留学生が学ぶようになってきており、留学生の教育に応える必要性から、教育の現場においても英語の使用が要求されるようになってきています。

経済学の分野ではミクロ経済学やマクロ経済学で学ぶ標準的な内容は世界共通といえます。そのため、日本で学ぶ留学生にも基礎的な経済理論をしっかりと教えることが重要ですし、彼らもそれを期待しています。そこで経済学の教育において、これまで英語を使用する機会の少なかった教育に携わる人を主な対象として、経済学で比較的目にする基本的な用語についての例文を編集し、ハンドブックとして出版することにしました。

このハンドブックは、名古屋地域の大学において経済学の教育に携わっている研究者が協力し、名古屋大学の大学院生の助力の下に作成しました。多くの経済学教育の現場で活用されることを期待しています。なお、今回はミクロ経済学の前半部分ともいえる消費者理論において使用される用語を中心に編集しました。今後、この後半部分やマクロ経済学、さらには国際経済学、財政学、金融論、日本経済論などの分野に広げていくことができると思っています。

2009年3月

監修者 多和田 眞

本書の使い方

本書は世界的に広く読まれているテキストの1つで、ミクロ経済学の入門書である H.R. Varian の *Intermediate Microeconomics* をもとに作成された専門用語・例文集です。本書でとりあげた内容は、消費者理論の基礎の部分为中心です。章立てについては Varian の最初の 6 章分を取り上げ、同書を読まれる方々への便宜をはかっています。

各章では重要と思われる専門用語を 5 つ選び、各用語を使った英文例を Varian やその他の経済学のテキストから 3 つずつ選び出し和訳をつける、という形で構成されています。特に例文の選定では、(1) 応用しやすい表現、(2) ぶだんの日本語で行われる授業でよく使われる表現を中心に抽出しました。

このような特徴から、(1) 先生方が英語で経済学を教えるときに、(2) 大学院生・学部生が経済英語を学ぶときに、そして (3) 外国人留学生が日本語で経済学を学ぶときに、本書をご活用いただければ願っています。

本書の構成

1.1 Exogenous variable / Endogenous variable

外生変数/内生変数

1. Typically, there will be two types of variables in our model, **endogenous variables**, whose values are determined by our model, and **exogenous variables**, whose values are predetermined.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, p.202.

特に、我々のモデルには次の 2 つの変数が現れる。すなわち、その値がモデルの中で決定される**内生変数**と、その値がモデルの外で既に決定されている**外生変数**の 2 つである。

The diagram shows a sample text with four numbered callouts: 1 points to the title '1.1 Exogenous variable / Endogenous variable', 2 points to the Japanese title '外生変数/内生変数', 3 points to the first sentence of the text, and 4 points to the bolded terms 'endogenous variables' and 'exogenous variables' in the text.

- 1 各章では代表的な専門用語を 5 つ選びました。
- 2 選んだ用語（英語）に日本語訳をつけています。
- 3 選んだそれぞれの用語に対して 3 つずつ例文を掲載しています。
- 4 選んだ用語が用いられているところを、英文、和文ともに太字で表しています。

目次

はじめに

本書の使い方と構成

第 1 章	The market	市場	1
第 2 章	Budget constraint	予算制約	7
第 3 章	Preferences	選好	13
第 4 章	Utility	効用	19
第 5 章	Choice	選択	25
第 6 章	Demand	需要	31

参考文献リスト 37

英語索引 39

日本語索引 41

おわりに

第 1 章

The market

市場

1.1 Exogenous variable / Endogenous variable

外生変数/内生変数

1. Typically, there will be two types of variables in our model, **endogenous variables**, whose values are determined by our model, and **exogenous variables**, whose values are predetermined.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, p.202.

特に、我々のモデルには次の2つの変数が現れる。すなわち、その値がモデルの中で決定される**内生変数**と、その値がモデルの外で既に決定されている**外生変数**の2つである。

2. The purpose of comparative statics is to analyse the effects on **endogenous variables** of changes in **exogenous** ones.

Malcolm, P. and R. Nicholas, (2001) *Mathematics for Economists: An Introductory Textbook*, 2nd Edition, p.283.

比較静学の目的は、**外生変数**の変化による**内生変数**への影響を分析することである。

3. An econometric model is a system of equations involving a number of **endogenous variables** (variables determined by the model), **exogenous variables** (variables which affect the system but are not affected by it), and stochastic or random shocks.

Preston, J. M., (1994) *The Rational Expectations Revolution: Readings from the Front Line*, p.7.

計量経済学的なモデルは、いくつかの**内生変数**(モデルの中で決定される変数)、**外生変数**(システムに影響を与えるが、システムからは影響を受けない変数)、そして確率的あるいは不確実なショックを含んだ方程式の体系である。

1.2 Reservation

留保

1. If there are a lot of consumers with dispersed **reservation prices**, it would make sense to think of this as a continuous function: if the price goes up by a small amount, only a few of the consumers – the “marginal” consumers – will decide to stop buying the good.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, p.153.

もしそれぞれ異なる**留保価格**を持つ多くの消費者がいるならば、これを連続関数として考えてもよいであろう。このとき、もし価格がほんの少し上がるならば、わずかな消費者だけが、すなわち『限界的な』消費者だけが、その財を買うのをやめる決定をするだろう。

2. An auction with a **reserve price** is an auction in which there is a minimum allowable bid.

Mas-Colell, A. et al., (1995) *Microeconomic Theory*, p.923.

留保価格のあるオークションは、最低落札価格のあるオークションである。

3. Below the **reservation wage**, the individual does not participate in the labor force.

Stiglitz, J.E. and C.E. Walsh, (2006) *Principles of Microeconomics*, 4th Edition, p.180.

留保賃金を下回ると、個人は労働を供給しなくなる。

1.3 Competitive market

競争（的な）市場

1. On **competitive markets**, every consumer takes prices as given, whether acting as a buyer or a seller.

Jehle, G.A. and P.J. Reny, (2001) *Advanced Microeconomic Theory*, 2nd Edition, p.188.

競争的な市場においては、買い手であろうとあるいは売り手であろうと、すべての消費者は価格を与えられたものとしてとらえる。

2. Thus **competitive markets** have exchange efficiency.

Stiglitz, J.E., (2000) *Economics of the Public Sector*, 3rd Edition, p.67.

したがって、**競争的な市場**では交換の効率性が保たれる。

3. A **market** is called perfectly **competitive**, if (1) all the commodities in this market are homogeneous, (2) each agent has complete information on the price - the common price for all commodities in this market, (3) no single agent, seller or buyer, can influence the market, and all the agents are anonymous, and (4) there are free entry and free exit of producers in the long run.

Ichiishi, T., (1997) *Microeconomic Theory*, pp.78-79.

次の 4 つの条件を満たすとき、ある**市場**が完全に**競争的**であるといわれる。(1)この市場におけるすべての財が同質的である。(2)それぞれの経済主体が価格について完全な情報を有している、つまり市場で取引される全ての財の共通価格を知っている。(3)売り手であれ買い手であれ、いかなる経済主体も市場には影響を及ぼすことができず、また全ての経済主体が匿名性を有している。そして(4)長期的には生産者は自由に参入や退出ができる。

1.4 Equilibrium price

均衡価格

1. An **equilibrium price** is a price where the amount demand equals the amount supplied.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, p.219.

均衡価格とは、需要量と供給量が等しい価格のことである。

2. At the **equilibrium price**, consumers get precisely the quantity of the good they are willing to buy at that price, and producers sell precisely the quantity they are willing to sell at that price.

Stiglitz, J.E. and C.E. Walsh, (2006) *Principles of Microeconomics*, 4th Edition, p.68.

均衡価格においては、消費者はその価格ならば買いたいと思うちょうどそれだけの量を買、生産者はその価格ならば売りたいと思うちょうどそれだけの量を売る。

3. Hence, exchanges execute between buyers with higher prices and sellers with lower prices than an **equilibrium price**.

Izumi, K., (2000) *An Artificial Market Model of a Foreign Exchange Market*, node.8.: available at <http://staff.aist.go.jp/kiyoshi.izumi/paper/dron/node8.html>

それゆえに、**均衡価格**より高い価格をつけた買い手と、**均衡価格**より低い価格をつけた売り手との間で、交換は行われる。

1.5 Long-run / Short-run

長期の／短期の

1. As managers, we routinely face decisions that involve similar trade-offs between the **short run** and **long run** consequences of current actions—dilemmas that decision theorists term *dynamic decision problems*.
Stephen, J. H. et al., (2002) *Wharton on Making Decisions*, p.38.

経営者として私たちは、現在の行動がもたらす**短期的な結果**と**長期的な結果**との間における、類似したトレード=オフ ーすなわち、決定論の理論家が『動学的決定問題』と呼ぶジレンマを含む決定に、日常的に直面している。

(訳者注) トレード=オフ：二律背反。両者ともに望ましい結果を同時には満たせないこと。

2. It should be clear therefore that for a given level of output, **long-run** costs, where the firm is free to choose all inputs optimally, can never be greater than **short-run** costs, where the firm may choose some but not all inputs optimally.

Jehle, G.A. and P.J. Reny, (2001) *Advanced Microeconomic Theory*, 2nd Edition, p.132.

したがって、以下のことは明らかであろう。所与の生産水準に対して、企業が自由に全ての投入を最適に選んだ時の費用である**長期費用**は、企業がいくつかの投入は選んでもすべての投入までは最適には選べない時の費用である**短期費用**を上回ることあり得ない。

3. When examining the comparative statics effects of a shock to a market, it is therefore important to distinguish between **long-run** and **short-run** effects.

Mas-Colell, A. et al., (1995) *Microeconomic Theory*, p.339.

したがって、ショックが市場に与える比較静学効果を調べる際には、**長期**と**短期**の効果を区別することは重要である。

第 2 章

Budget constraint

予算制約

2.1 Budget

予算

1. The points on the **budget line** represent all affordable combinations of two goods.

Dixit, A.K., (1990) *Optimization in Economic Theory* 2nd Edition, p.1.

予算線上の点は、2つの財の消費可能な組み合わせのすべてを表している。

2. To render the optimization problem meaningful, the purchasing power of the consumer must also be taken into account; i.e., a **budget constraint** should be incorporated into the problem.

Chiang, W., (2005) *Fundamental Methods of Mathematical Economics*, 4th Edition, p.348.

最適化問題を意味のあるものにするためには、消費者の購買力も考慮に入れなければならない。すなわち、**予算制約**を問題に組み込むべきである。

3. The **budget sets** should be thought of as an exhaustive listing of all the choice experiments that the institutionally, physically, or otherwise restricted social situation can conceivably pose to the decision maker.

Mas-Colell, A. et al., (1995) *Microeconomic Theory*, p.10. を一部修正。

予算集合は、制度的、物理的ないしその他の要因により制約された社会的状況が意思決定者に対して課すことができると考えられる、あらゆる選択の試みの網羅的なリストとして考えられるべきである。

2.2 Tax

税

1. Commodities can alternatively be subject to **ad valorem taxation** so that the **tax payment** is defined as a fixed proportion of the producer price.

Hindriks, J. and G.D. Myles, (2006) *Intermediate Public Economics*, p.227.

あるいは、生産者価格の一定割合を**納税額**と定めた**従価税**が商品に課されることがありうる。

2. In the economic envisaged, **lump-sum taxes** are the only tool of policy that is required beyond an active competition policy.

Hindriks, J. and G.D. Myles, (2006) *Intermediate Public Economics*, p.373.

経済学の考え方からすると、**定額税**は積極的競争政策よりも必要とされる唯一の政策手段である。

3. For example, if the government imposes a **quantity tax**, this means that the consumer has to pay a certain amount to the government for each unit of the good he purchases.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.26.

たとえば、もし政府が**従量税**を課せば、これは消費者が購入した財 1 単位ごとに政府に対して一定額の支払いをしなければならないことを意味する。

2.3 Subsidy

補助金

1. In the case of **quantity subsidy**, the government *gives* an amount to the consumer that depend on the amount of the good purchased.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.27.

従量補助金の場合は、政府は消費者に対して、財の購入量に応じた金額を与える。

2. The pre-1979 Food Stamp program was an **ad valorem subsidy** on food.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.28.

1979年以前のフード・スタンプ・プログラムは、食糧への**従価補助金**であった。

(訳注) フード・スタンプ・プログラム：アメリカの低所得者向け食料費補助対策

3. A **subsidy** works like a reduction in price in inducing consumers to purchase more of the good.

Hirshleifer, J. et al., *Price Theory and applications*, 7th Edition, p.123.

補助金は、より多くの財を購入するように消費者を促すという点で、価格の引き下げに似た働きをする。

2.4 Opportunity cost

機会費用

1. Economists sometimes say that the slope of the budget line measures the **opportunity cost** of consuming good 1.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.22.

経済学者がいうように、予算線の傾きで財1を消費することによる**機会費用**が測られる、ということである。

2. If the firm, by renting out the space that is not needed, could receive \$3 per month for each square foot, then this is the **opportunity cost** of leaving the space idle.

Stiglitz, J.E., (1993) *Economics*, p.44.

もし、不要な場所を貸し出すことによって、企業が1平方フィートあたり3ドルを毎月受け取ることができるものとする、これがその場所を遊休させておく**機会費用**である。

3. Businesses often neglect one of the most important **opportunity costs** of all: the time of their top employees.

Stiglitz, J.E., (1993) *Economics*, p.43.

企業はあらゆるものの中で最も重要な**機会費用**のうちの1つをしばしば無視する。すなわち、それは最も地位の高い従業員の時間である。

2.5 Numeraire

価値基準財

1. The **numeraire** price is the price relative to which we are measuring the other price and income.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.26.

価値基準財の価格とは、それと比較をすることで他の財の価格や所得の大きさを測るような財の価格のことである。

2. In the language of economics, we are treating good 2 as the **numeraire**.

Simon, C.P. and L. Blume (1994) *Mathematics for Economics*, p.361.

経済学の用語を用いれば、財2を**価値基準財**とみなしている、ということになる。

3. The important thing is to establish conditions under which the marginal revenue product of inputs at the optimum is finite, ensuring that the proposed **numeraire** is not a free good.

Dixit, A.K., (1990) *Optimization in Economic Theory* 2nd Edition, p.92.

重要なことは、最適値での要素投入の限界収入生産物が有限であるという条件を成立させることである。それにより、提示された**価値基準財**が自由財ではないことが保証されることになる。

第 3 章

Preferences

選好

3.1 Consumer preference

消費者選好

1. Economists assume that a consumer can rank various consumption possibilities. The way in which the consumer ranks the consumption bundles describes the **consumer's preferences**.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.52.

消費者が様々な消費の可能性を順序付けできると、経済学者は仮定する。消費者が消費の組みあわせを順序付けすることで、**消費者の選好**が表わされる。

2. The consumer's indifference curves represent his **preferences**. An indifference curve shows the various bundles of goods that make the consumer equally happy. Points on higher indifference curves are preferred to points on lower indifference curves.

Mankiw, N.G., (2001) *Principles of Microeconomics*, 2nd Edition, p.488.

消費者の無差別曲線は**消費者の選好**を表している。無差別曲線は消費者に同じ満足度をもたらす様々な財の組みあわせを示している。より右上方にある無差別曲線上の点は、それより左下方にある無差別曲線上の点よりも好ましい。

3. The **consumer** is assumed to have **preferences** on the consumption bundles in **X**. When we write $\mathbf{x} \geq \mathbf{y}$, we mean “the consumer thinks that the bundle **x** is at least as good as the bundle **y**.” We want **the preferences** to order the set of bundles.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, p.94.

消費者は集合 **X** に含まれる消費の組みあわせに対して**選好**を持つと仮定される。 $\mathbf{x} \geq \mathbf{y}$ は、『消費者が消費の組みあわせ **x** を消費の組みあわせ **y** と少なくとも同じぐらいよいと考える』ことを意味する。消費の組みあわせの集合に順序付けを行うために**選好**を必要とする。

3.2 Marginal willingness to pay

限界支払用意

1. We could also say that the consumer is just on the margin of being willing to “pay” some of good 1 in order to buy some more of good 2. So sometimes you hear people say that the slope of the indifference curve measures the **marginal willingness to pay**.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.51.

消費者が第2財をさらに多く購入するために第1財のいくらかを『支払』ってもよいと考えるギリギリのところにまさいいる、ということもできる。したがって、無差別曲線の傾きは**限界支払用意**を測る、としばしばいわれる。

2. Thus, the vertical sum of the demand curves is just the sum of their **marginal willingnesses to pay**, that is, it is the total amount that all individuals together are willing to pay for an extra unit of the public good.

Stiglitz, J.E., (1988) *Economics of the Public Sector*, 2nd Edition, pp.135-6.

したがって、需要曲線を垂直方向に足しあわせると、ちょうど人々の**限界支払用意**の合計になる。すなわち、公共財をさらに1単位増加させるのに、すべての個人が一緒に支払ってもよいと考える総量である。

3. The assumption that the consumer with the larger total willingness-to-pay also has the larger **marginal willingness-to-pay** is sometimes known as the single crossing property since it implies that any two indifference curves for the agents can intersect at most once.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, pp.244-5.

より大きい総支払用意を持つ消費者がより大きい**限界支払用意**を持つという仮定は、単一交差性として知られている。なぜなら、これは2人の消費者の無差別曲線が多くとも一度しか交差できないことを意味するからである。

3.3 Bads

非経済財

1. Thus, if commodity 1 is a good and commodity 2 is a **bad**, then the demand functions will be $x_1 = \frac{m}{p_1}, x_2 = 0$

Varian, H.R., (2006) *Intermediate Microeconomics*, 7th Edition, p.81.

したがって、第1財が通常財で第2財が**非経済財**であるならば、それらの需要関数は $x_1 = \frac{m}{p_1}, x_2 = 0$ になる。

2. If one of the goods is a "**bad**," like garbage, or pollution, then strong monotonicity will not be satisfied. But in these cases, redefining the good to be the *absence* of garbage, or the *absence* of pollution, will often result in preferences over the re-defined good that satisfies the strong monotonicity postulate.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, p.96.

財の1つがガラクタや公害のような「**非経済財**」であるならば、強い意味での単調性は満たされない。しかしながらこれらのケースにおいて、財の中にながら「ない」、あるいは公害が「ない」と再定義することで、強い意味での単調性の仮定を満たすように再定義された財への選好を表すようになる。

3. Nonetheless, when $X = R_+^L$ local nonsatiation rules out the extreme situation in which all commodities are **bads**, since in that case no consumption at all (the point $x=0$) would be a satiation point.

Mas-Colell, A., et al., (1995) *Microeconomic Theory*, p.43.

にもかかわらず、 $X = R_+^L$ の場合、局所非飽和はすべての財が**非経済財**であるという極端な状況を排除する。なぜならすべての財が**非経済財**である場合には、まったく消費しないこと ($x=0$ の点) は飽和点になるからである。

3.4 Well-behaved preference

適正な性質をもつ選好

1. **Well-behaved preferences** are monotonic (meaning more is better) and convex (meaning averages are preferred to extremes).

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.52.

適正な性質をもつ選好は単調（多ければ多いほどより望ましいことを意味する）かつ凸（極端より平均が好まれることを意味する）である。

2. A **preference** ordering is said to be "**well-behaved**" if it is representable by a direct utility function that is monotonically increasing in all its arguments, has continuous second partial derivatives, and is strictly quasiconcave.

Pollak, R.A. and Wales, T.J., (1992) *Demand System Specification and Estimation*, p.7.

すべての要素について単調増加的であり、2 次の連続偏導関数を持ち、そして狭義の準凹関数である直接効用関数によって選好の順序付けが表されうる場合、その**選好の順序付け**は「**適正な性質をもつ**」と言われる。

3. It should be emphasized that the *existence* of a utility function is not at issue; any **well-behaved preference** ordering can be represented by a utility function.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, p.174.

効用関数の「存在」は問題にはならない、ということは強調すべきである。なぜなら、いかなる**適正な性質をもつ選好**の順序付けも、効用関数によって表すことができるからである。

3.5 Satiation (point)

飽和（点）

1. We sometimes want to consider a situation involving **satiation**, where there is some overall best bundle for the consumer, and the “closer” he is to that best bundle, the better off he is, in terms of his own preferences.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.43.

時には、**飽和**を含んだ状態を考察する必要がある。この**飽和**の状態においては、消費者自身の選好に関して最善の財の組みあわせとなっており、またその最善の財の組みあわせに『近ければ近いほど』より望ましい状態となる。

2. For example, suppose that the consumer has some most preferred bundle of good (\bar{x}_1, \bar{x}_2) , and the further away he is from that bundle the worse off he is. In this case we say that (\bar{x}_1, \bar{x}_2) is a **satiation point**, or a bliss point.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.43.

たとえば、消費者が最も好むある財の組みあわせ (\bar{x}_1, \bar{x}_2) を持ち、またこの財の組みあわせから遠ざかれば遠ざかるほど悪い状態になるとしよう。この場合、 (\bar{x}_1, \bar{x}_2) は**飽和点**あるいは**至福点**であるという。

3. Local **nonsatiation** says that one can always do a little bit better, even if one is restricted to only small changes in the consumption bundle. You should verify that strong monotonicity implies local **nonsatiation** but not vice versa. Local **nonsatiation** rules out “thick” indifference curves.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis*, 3rd Edition, p.96.

局所的**非飽和**は、消費の組みあわせをたとえわずかにしか変化させられないとしても、少しでも良い状態に常になれることを意味している。読者には、強い意味での単調性が局所的**非飽和**を意味する一方、その逆は成立しないことを確かめられたい。局所的**非飽和**は「厚み」のある無差別曲線を排除する。

第 4 章
Utility
效用

4.1 Utility function

効用関数

1. A **utility function** is a way of assigning a number to every possible consumption bundle such that more-preferred bundles get assigned larger numbers than less-preferred bundles.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.55.

効用関数は、より好ましくない消費の組みあわせよりもより好ましい消費の組みあわせにより大きな値を与えるようにして、すべての実行可能な消費の組みあわせに値を割り当てる方法である。

2. A **utility function** is often a very convenient way to describe preferences, but it should not be given any psychological interpretation.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis* 3rd Edition, p.95.

効用関数はしばしば選好を描写するのにとても便利な方法であるが、それにはいかなる心理学的解釈も与えられるべきではない。

3. Consumer choice theory shows the equivalence of the axiom of preference and the assumption of the existence of a **utility function**.

Champsaur, P. and J. Milleron, (1983) *Advanced Exercises in Microeconomics*. p.34. を一部修正。

消費者選択理論は、選好の公理と、**効用関数**の存在の仮定とが同値であることを示している。

4.2 Indifference curve

無差別曲線

1. For each different value of the constant, you get a different **indifference curve**.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition p.59.

異なる値である定数のそれぞれについて、異なる**無差別曲線**が得られる。

2. The set of all consumption bundles that are indifferent to each other is called an **indifference curve**.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis* 3rd Edition, p.97.

互いに無差別な消費の組み合わせをすべて含む集合は、**無差別曲線**と呼ばれる。

3. This **indifference curve** shows combinations of food and clothing that yield equal satisfaction and among which the household is indifferent.

Lipsey, R. et al., (1990) *Microeconomics* 9th Edition, p.142.

この**無差別曲線**は、等しい満足を生み、家計にとって無差別となる食品と衣料品の組みあわせを表わしている。

4.3 Marginal rate of substitution / Ratio of the marginal utility

限界代替率 / 限界効用の比率

1. The **ratio of marginal utilities** gives us an observable magnitude — namely the **marginal rate of substitution**.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.66. を一部修正。

限界効用の比率は、観察可能な大きさ、すなわち**限界代替率**を与える。

2. The expression, $\frac{dx_j}{dx_i} = \frac{(\partial u(x)/\partial x_i)}{(\partial u(x)/\partial x_j)}$, is known as the **marginal rate of the**

substitution between goods i and j .

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis* 3rd Edition, p.98. を一部修正。

この $\frac{dx_j}{dx_i} = \frac{(\partial u(x)/\partial x_i)}{(\partial u(x)/\partial x_j)}$ という表現は、財 i と j 間の**限界代替率**として知られて

いるものである。

3. For the consumers, the **marginal rate of substitution** between goods X and Y is equal to the price ratio.

Champsaur, P. and J. Milleron, (1983) *Advanced Exercises in Microeconomics*, p.145.

消費者にとって、財 X と財 Y との間の**限界代替率**は、それらの価格比に等しい。

4.4 Perfect substitutes

完全代替

1. In general, preferences for **perfect substitutes** can be represented by a utility function of the form : $u(x_1, x_2) = ax_1 + bx_2$

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.61. を一部修正。

一般に、**完全代替**的な選好は、 $u(x_1, x_2) = ax_1 + bx_2$ といった形の効用関数によって表わすことができる。

2. Since the two goods are **perfect substitutes** , the firm will use whichever is cheaper.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis* 3rd Edition, p.57.

2 財が**完全代替**であるため、企業はどちらの財でも安いほうを使うだろう。

3. The brands of beer are **perfect net substitutes** for this consumer.

Solberg, E., (1982) *Intermediate Microeconomics*. p.99.

これらのビールのブランドは、この消費者にとっては**完全代替**である。

4.5 Perfect complement

完全補完

1. The utility function for **perfect complements** takes the form $u(x_1, x_2) = \min\{x_1, x_2\}$.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.62. を一部修正。

完全補完的な効用関数は、 $u(x_1, x_2) = \min\{x_1, x_2\}$ といった形をとる。

2. The ingredients are said to be **perfect net complements** because they must be consumed in fixed proportion.

Solberg, E., (1982) *Intermediate Microeconomics*. p.99. を一部修正。

これらは一定の割合で必ず消費されるため、これらの要素を**完全補完**である、という。

3. At the opposite extreme the indifference curves form right angles, indicating that the two goods are **perfect complements**.

De Serpa, A., (1985) *Microeconomic Theory Issues and Applications*. p.89. を一部修正。

反対の極端なケースでは、無差別曲線は直角を描くことになる。その場合、2財が**完全補完**であることを表わしている。

第 5 章
Choice
選択

5.1 Utility maximization problem

効用最大化問題

1. Multiplying all prices and income by some positive number does not change the budget set at all and thus cannot change the answer to the **utility maximization problem**.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis* 3rd Edition, p.99. を一部修正。

すべての価格と所得に正の定数をかけても予算集合はまったく変化しない。したがって、**効用最大化問題**の解も変化しない。

2. Thus, any demanded bundle can be expressed either as the solution to the **utility maximization problem** or the expenditure minimization problem.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis* 3rd Edition, p.106.

したがって、どんな需要の組みあわせでも、**効用最大化問題**あるいは支出最小化問題の解として表すことができる。

3. With this result, we now focus our attention on the properties of two objects that emerge from the **utility maximization problem**: the consumer's set of optimal consumption bundles (the solution set of the **utility maximization problem**) and the consumer's maximal utility value (the value function of the **utility maximization problem**).

Mas-Colell, A. et al., (1995) *Microeconomic Theory*, p.51. を一部修正。

この結果とともに、我々は**効用最大化問題**を解くことで得られる次の二つの事柄の性質に注目しよう。一つめは、消費者の最適消費の組みあわせの集合（**効用最大化問題**の解の集合）であり、二つめは消費者の効用最大値（**効用最大化問題**から得られる価値関数）である。

5.2 Optimal choice (Optimal point) / Optimal bundle

最適選択（最適点）／最適組みあわせ

1. Note an important feature of this **optimal bundle**: at this choice, the indifference curve is tangent to the budget line.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.74.

最適な財の組みあわせに関して注意すべき重要な特徴とは、この選択では、無差別曲線は予算線に接している、ということである。

2. What is always true is that at the **optimal point** the indifference curve can't cross the budget line.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.75.

最適点において無差別曲線が予算線と交わることがないということは、いかなる場合でも成立する。

3. Roughly speaking, the **optimal choice** set is “homogeneous of degree zero” in prices and income.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis* 3rd Edition, p.99.

大ざっぱに言って、**最適選択集合**は価格と所得に関してゼロ次同次である。

5.3 Tangent (Tangent line)

接点（接線）

1. Here the indifference curve has a kink at the optimal choice, and a tangent just isn't defined, since the mathematical definition of a tangent requires that there be a unique **tangent line** at each point.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.75.

ここでは無差別曲線は最適選択において折れ曲っており、**接線**はちょうどここでは定義できない。なぜなら、接線の数学的な定義により、接線の引ける点においてはただ1本の接線しか存在しないからである。

2. A smooth curve cannot be **tangent** to two different lines at the same point—an important fact about geometry that will be useful to keep in mind.

Landsburg, S.E., (2001) *Price Theory and Applications* 5th Edition, p.65. を一部修正。

滑らかな曲線が同じ点で二本の異なる線と**接する**ことはできない。これは覚えておくとうる有用な幾何学の一つの重要な事実である。

3. If the optimal choice involves consuming some of both goods—so that it is an interior optimum—then necessarily the indifference curve will be **tangent** to the budget line.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.76.

もし最適選択が両財をとともに消費するものであれば、したがって最適点が内点であれば、無差別曲線は必ず予算線と**接している**。

5.4 Tangency condition

接線条件

1. This must clearly satisfy the **tangency condition** that the slope of the indifference curve equals the slope of the budget line.

Varian, H.R., (1992) *Microeconomic Analysis* 3rd Edition, p.100.

これは明らかに、無差別曲線の傾きと予算制約線の傾きが等しいという**接線条件**を満たさなければならない。

2. Here we have three bundles where the **tangency condition** is satisfied, all of them interior, but only two of them are optimal.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.76.

ここには**接線条件**が満たされている3通りの財の組み合わせがあり、いずれも内点であるが、そのうちの二つだけが最適となっている。

3. So in general, the **tangency condition** is only a necessary condition for optimality, not a sufficient condition.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.76.

したがって、一般的には、**接線条件**は最適のための必要条件でしかなく、十分条件ではない。

5.5 Interior optimum

内点最適

1. If we have an **interior optimum** with smooth indifference curves, the slope of the indifference curve and the slope of the budget line must be the same.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.76.

もし滑らかな無差別曲線上で**内点最適**があれば、無差別曲線の傾きと予算線の傾きは等しくなければならない。

2. The condition that the marginal rate of substitution must equal the slope of the budget line at an **interior optimal** is obvious graphically, but what does it mean economically?

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.77.

内点最適において、限界代替率が予算線の傾きと等しくなければならないという条件は、図からでも明らかであるが、それは経済学的に何を意味しているのだろうか。

3. In contrast with the case of an **interior optimum**, an inequality between the marginal rate of substitution and the price ratio can arise at a boundary optimum because the consumer is unable to reduce her consumption of good 2 (and correspondingly increase her consumption of good 1) any further.

Mas-Colell, A. et al., (1995) *Microeconomic Theory*, p.54.

内点最適の場合とは異なり、端点最適では限界代替率と価格比が異なることがあり得る。なぜなら、消費者が第二財の消費をそれ以上減らすこと（同時に第一財の消費を増やすことも）ができないからである。

第 6 章

Demand

需要

6.1 Demand function

需要関数

1. Recall that the **demand function** for good 1, say, will typically be a function of the price of both good 1 and good 2, so we write $x_1(p_1, p_2, m)$.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.111.

たとえば、財1の**需要関数**は、一般的には財1と財2の両方の価格の関数になることを思い出そう。したがって、この**需要関数**を $x_1(p_1, p_2, m)$ と書く。

2. The Slutsky equation can be derived directly from the definition of the **demand functions**, but it is a rather messy derivation.

Varian, H.R., (1984) *Microeconomics Analysis* 2nd Edition, p.88.

スルツキー方程式は、**需要曲線**の定義から直接導き出される。しかし、その導出は多少面倒である。

3. **Demand functions** expressed as a function of prices and incomes are observable; when we want to emphasize the difference between the Hicksian **demand function** and the usual **demand function**, we will refer to the latter as the Marshallian **demand function**.

Varian, H.R., (1984) *Microeconomics Analysis* 2nd Edition, p.92.

価格と所得の関数として表わされる**需要関数**は観察可能である。我々がヒックスの**需要関数**と一般的な**需要関数**との違いを強調したいとき、我々は後者のことをマーシャルの**需要関数**と言う。

6.2 Demand curve

需要曲線

1. Thus the price and quantity of a good will move in opposite direction, which means that the **demand curve** will typically have a negative slope.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.106. を一部修正。

したがって、ある財の価格と取引量は逆方向に動く。このことは、**需要曲線**が通常、負の傾きを持つことを意味する。

2. If we hold p_2 and m fixed and plot p_1 against x_1 we get the **demand curve**.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.112.

p_2 と m を固定させて、座標上に x_1 に対する p_1 の点をつけていくことによって、**需要曲線**が得られる。

3. The point where the **demand curve** intersects the supply curve determines the equilibrium price P^* and quantity Q^* .

Hirshleifer, J. et al., (2005) *Price Theory and Applications* 7th Edition, p.142.

需要曲線が供給曲線と交わる点で、均衡価格 P^* と均衡取引量 Q^* が決定される。

6.3 Engel curve

エンゲル曲線

1. If we hold the prices of goods 1 and 2 fixed and look at how demand changes as we change income, we generate a curve known as the **Engel curve**.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.97.

財 1 と財 2 の価格を固定し、所得の変化に応じて需要がどのように変化するのかに目を向けると、**エンゲル曲線**として知られている曲線が得られる。

2. Another kind of preferences that generates a special form of income offer curves and **Engel curve** is the case of quasilinear preferences.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.102.

特殊な形状の所得オファー曲線と**エンゲル曲線**を形作る他の種類の選好は、準線型の選好の場合である。

3. The **Engel Curve** pictures the effect of income changes upon a single good X.

Hirshleifer, J. et al., (2005) *Price Theory and Applications* 7th Edition, p.142.

エンゲル曲線は、所得の変化がある一つの財 X に与える影響を表している。

6.4 Good (1)

財 (1)

1. **Normal goods** can be either **superior** or **inferior**; **Giffen goods** are only **inferior**.

Katzner, D.W., (2006) *An Introduction to the Economic Theory of Market Behavior*, p.69.

正常財は、上級財の場合もあれば、下級財の場合もありうる。しかし、ギッフェン財は下級財の場合にしかありえない。

2. These possibilities involved different shapes of price consumption curves, and consequently different shapes of demand curves: downward sloping in the case of **normal** and **inferior goods** (except where the two effects cancel out yielding a vertical demand curve), and backward sloping in the case of the **Giffen good**.

Hay, E.G. et al., (1996) *Intermediate Microeconomics*, p.54. を一部修正。

これらの可能性には、価格消費曲線の異なる形が含まれ、そのため、需要曲線の異なる形も含まれる。正常財と下級財の場合は右下がりの傾きを（二つの効果が相殺しあい、垂直の需要曲線となる場合を除く）、そして、ギッフェン財の場合は逆向きの傾きを持つ。

3. It is no accident that we used gruel as an example of both an **inferior good** and a **Giffen good**.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics* 2nd Edition, p.105. を一部修正。

我々が下級財とギッフェン財の例としてたまたまオートミール粥を使用したのではない。

6.5 Good (2)

財（2）

1. If the demand for a good goes up by a greater proportion than income, we say that it is a **luxury good**, and if it goes up by a lesser proportion than income we say that it is a **necessary good**.

Varian, H.R., (1990) *Intermediate Microeconomics 2nd Edition*, p.101.

ある財に対する需要が所得よりも高い割合で増加する場合、その財は**奢侈品**と呼ばれる。一方、それが所得よりも低い割合で増加する場合、その財は**必需品**と呼ばれる。

2. The income expansion path bends towards one good or the other—i.e., as the consumer gets more income he wishes to consume more of both goods but proportionally more of one good (the **luxury good**) than of the other (the **necessary good**).

Varian, H.R., (1978) *Microeconomics Analysis*, p.87.

所得拡張経路はある一方の財、もしくはもう一方の財に向かって曲がっている。すなわち、消費者がより多くの所得を得るのにしたがって、両方の財をより多く消費したいと思うが、このとき、一方の財（**奢侈品**）に対する割合は高くなり、もう一方の財（**必需品**）に対する割合は低くなるのである。

3. First, preferences are such that family will send its children to work only if income from adult labour is very low; thus, child leisure is a **luxury good**.

Bardhan, P.K. and C. Udry, (1999) *Development Microeconomics*, p.27.

第一に、選好が大人の労働から得られる所得がとても低い場合に限り、家族がその子供を働きに出す、というようなものである。したがって、子どもの余暇は**奢侈品**なのである。

参考文献

- Bardhan, P.K. and C. Udry, (1999) *Development Microeconomics*, Oxford University Press, New York.
- Champsaur, P. and J. Milleron, (1983) *Advanced Exercises in Microeconomics*, Harvard University Press, Cambridge, MA.
- Chiang, A.C. and K. Wainwright, (2005) *Fundamental Methods of Mathematical Economics*, 4th Edition, McGraw Hill Higher Education, New York.
- Deserpa. A.C., (1985) *Microeconomic Theory Issues and Applications*, 2nd Edition, Allyn and Bacon, Boston, MA.
- Dixit, A.K., (1990) *Optimization in Economic Theory* 2nd Edition, Oxford University Press, New York.
- Hay, F.G., Oughton C. and A.S. Skinner, (1996) *Intermediate Microeconomics: A Perspective on Price Theory*, Manchester University Press, Manchester and New York.
- Hindriks, J. and G.D. Myles, (2006) *Intermediate Public Economics*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Hirshleifer, J., Glazer A. and D. Hirshleifer, (2005), *Price Theory and Applications*, 7th Edition, Cambridge University Press, New York.
- Hoch, S.J. et al., (2002) *Wharton on Making Decisions*, John Wiley and Sons Inc., USA.
- Ichiishi, T., (1997) *Microeconomic Theory*, Blackwell Publishers, Oxford, U.K.
- Izumi, K., (2000), *An Artificial Market Model of a Foreign Exchange Market*: available at <http://staff.aist.go.jp/kiyoshi.izumi/paper/dron/node8.html>
- Jehle, G.A. and P.J. Reny, (2001) *Advanced Microeconomic Theory*, 2nd Edition, Addison-Wesley, Boston, MA.
- Katzner, D.W., (2006) *An Introduction to the Economic Theory of Market Behavior*, Edward Elger Publishing, Cheltenham, UK.
- Landsburg, S.E., (2001/2005) *Price Theory and Applications* 5th/6th Edition, South-Western Colledge Publishing, Mason, OH.
- Lipsey, R., (1990) *Microeconomics*, 9th Edition, Harper & Row, New York.
- Mankiw, N.G., (2001) *Principles of Microeconomics*, 2nd Edition, North Publishers, New York.
- Mas-Collèl, A., Whinston M.D. and J.R. Green, (1995) *Microeconomic Theory*,

- Oxford University Press, New York.
- Miller, P.J. ed., (1994) *The Rational Expectations Revolution: Readings from the Front Line*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Pemberton, M. and N. Rau, (2001) *Mathematics for Economists: An Introductory Textbook*, 2nd Edition, Manchester University Press, Manchester.
- Pollak, R.A. and T.J. Wales, (1992) *Demand System Specification and Estimation*, Oxford University Press, USA.
- Simon, C.P. and L. Blume, (1994) *Mathematics for Economics*, W.W. Norton & Company Inc., New York.
- Solberg, E.J., (1982) *Intermediate Microeconomics*, Business Publications Inc., TX.
- Stiglitz, J.E., (1988/2000) *Economics of the Public Sector*, 2nd /3rd Edition, W.W. Norton & Company Inc., New York.
- Stiglitz, J.E., (1993) *Economics*, W.W. Norton & Company Inc., New York.
- Stiglitz, J.E. and C.E. Walsh, (2006) *Principles of Microeconomics*, 4th Edition, W.W. Norton & Company Inc., New York.
- Varian, H.R., (1978/1984/1992) *Microeconomic Analysis*, 1st /2nd /3rd Edition, W.W. Norton & Company Inc., New York.
- Varian, H.R., (1990/2006) *Intermediate Microeconomics* 2nd /7th Edition, W.W. Norton & Company Inc., New York.

英語索引

Bads	非経済財	p.16
Budget	予算	p. 8
Competitive market	競争（的な）市場	p. 4
Consumer preference	消費者選好	p.14
Demand curve	需要曲線	p.33
Demand function	需要関数	p.32
Endogenous variable	内生変数	p. 2
Engel curve	エンゲル曲線	p.34
Equilibrium price	均衡価格	p. 5
Exogenous variable	外生変数	p. 2
Giffen goods	ギッフェン財	p.35
Indifference curve	無差別曲線	p.21
Inferior goods	下級財	p.35
Interior optimum	内点最適	p.30
Long-run	長期の	p. 6
Luxury good	奢侈品	p.36
Marginal rate of substitution	限界代替率	p.22
Marginal willingness to pay	限界支払用意	p.15
Necessary good	必需品	p.36
Normal goods	正常財	p.35
Numeraire	価値基準財	p.12
Opportunity cost	機会費用	p.11
Optimal bundle	最適組み合わせ	p.27
Optimal choice	最適選択	p.27
Optimal point	最適点	p.27
Perfect complements	完全補完	p.24
Perfect substitutes	完全代替	p.23
Ratio of the marginal utility	限界効用の比率	p.22
Reservation	留保	p. 3
Satiation (point)	飽和(点)	p.18
Short-run	短期の	p. 6
Subsidy	補助金	p.10
Superior goods	上級財	p.35

Tangency condition	接線条件	p.29
Tangent	接点	p.28
Tangent line	接線	p.28
Tax	税	p. 9
Utility function	効用関数	p.20
Utility maximization problem	効用最大化問題	p.26
Well-behaved preference	適正な性質を持つ選好	p.17

日本語索引

エンゲル曲線	Engel curve	p.34
外生変数	Exogenous variable	p. 2
下級財	Inferior goods	p.35
価値基準財	Numeraire	p.12
完全代替	Perfect substitutes	p.23
完全補完	Perfect complements	p.24
機会費用	Opportunity cost	p.11
ギッフェン財	Giffen goods	p.35
競争（的な）市場	Competitive market	p. 4
均衡価格	Equilibrium price	p. 5
限界効用の比率	Ratio of the marginal utility	p.22
限界支払用意	Marginal willingness to pay	p.15
限界代替率	Marginal rate of substitution	p.22
効用関数	Utility function	p.20
効用最大化問題	Utility maximization problem	p.26
最適組み合わせ	Optimal bundle	p.27
最適選択	Optimal choice	p.27
最適点	Optimal point	p.27
奢侈品	Luxury good	p.36
需要関数	Demand function	p.32
需要曲線	Demand curve	p.33
上級財	Superior goods	p.35
消費者選好	Consumer preference	p.14
税	Tax	p. 9
正常財	Normal goods	p.35
接線	Tangent line	p.28
接線条件	Tangency condition	p.29
接点	Tangent	p.28
短期の	Short-run	p. 6
長期の	Long-run	p. 6
適正な性質を持つ選好	Well-behaved preference	p.17
内生変数	Endogenous variable	p. 2

内点最適	Interior optimum	p.30
非経済財	Bads	p.16
必需品	Necessary good	p.36
飽和(点)	Satiation (point)	p.18
補助金	Subsidy	p.10
無差別曲線	Indifference curve	p.21
留保	Reservation	p. 3
予算	Budget	p. 8

おわりに

本ハンドブックは名古屋地域の大学における経済学分野の有志の先生がた（「名古屋経済学教育研究会」）のご協力によって制作されたものです。本書の基本コンセプトは、「現場の教員による、現場の教員のためのハンドブック」という点にあります。そのねらいは次の2つです。

第一は、教育現場の最前線にいる教員の視点とニーズに基づいた内容にすることです。最初に、同研究会の代表を引き受けて下さった名古屋大学大学院経済学研究科の多和田眞先生および幹事役の柳原光芳先生とブレーストーミングを行いました。その結果、ミクロ経済学のうち消費者理論に関する専門用語は経済学の導入教育にとって必須部分であり、これらの専門用語による例文集は、英語で授業を行う際に有効利用できる可能性が高いとご判断いただきました。教育学者の私にとってこのような判断は能力を超えるものですが、お二人の専門家のご尽力により、幸いにして明確な方向性を打ち出すことができました。

第二は、現場の先生方や経済学を専攻する大学院生に制作の中心的な担い手となっていただいたことです。ミクロ経済学の著名な英語テキストから専門用語を抽出し、それを例文化する作業は、名古屋地域の経済学教員と名古屋大学の大学院生の連携プレーによって実現しました。大学院生の人たちにとっても、こうした一連のプロセスは将来必要となるティーチングスキルを身につける上で役立つものと思います。

名古屋大学高等教育研究センターはこれまで大学教育に関するさまざまな教材を作成してきました。しかし、個別の学問分野に即した教材開発は、各分野の専門家のご協力や主体的参加なくしては実現できません。FDの基本は、教育現場にいる教員の意欲を高めることに尽きると思います。私どものようなセンターにできることは、せいぜいその触媒としての役割を果たすくらいではないでしょうか。

お世話になった方々に記して感謝申し上げます。本ハンドブックが経済学教育に関わる方々にとって、少しでもお役に立てれば幸いです。

2009年3月
プロジェクト・マネージャー
近田政博
(名古屋大学高等教育研究センター)

本ハンドブックは平成20年度文部科学省特別教育研究経費による「FD・SDコンソーシアム名古屋」事業（採択：名古屋大学高等教育研究センター）の一環です。

制作チーム

- 【監修】 名古屋大学 大学院経済学研究科 教授 多和田 眞
- 【執筆者】 名城大学 経済学部 准教授 伊藤 志のぶ
愛知大学 経済学部 教授 栗原 裕
中京大学 経済学部 教授 近藤 健児
南山大学 総合政策学部 准教授 寶多 康弘
名古屋大学 大学院経済学研究科 准教授 柳原 光芳
- 【執筆協力者】
- 名古屋大学 大学院経済学研究科 岡田 知久
小川 健
進藤 優子
董 維佳
名古屋大学 経済学部 沖本 まどか
光岡 聖浩
- 【プロジェクト・マネジャー】
名古屋大学 高等教育研究センター 准教授 近田 政博

経済学英語ハンドブック 授業で使える例文集

2009年3月31日 オンデマンド版発行

編集：名古屋経済学教育研究会

（代表 多和田 眞）

事務局：名古屋大学高等教育研究センター

Tel: 052-789-5692 Fax: 052-789-5695

Email: info@cshe.nagoya-u.ac.jp

ISBN978-4-86293-035-4